



たらちね通信

Mothers' Radiation Lab & Clinic Fukushima

vol.23



2024.11

たらちね通信



ご支援者のみなさまへ

担当 木村

いつも、たらちねの活動を応援いただき、誠にありがとうございます。
たらちねの活動は11月13日で、丸13年となりました。

1月1日に発生した能登半島沖地震、8月8日の宮崎県日向灘地震、
その他度重なる自然災害が続いています。大きな災害が起きるたび、
人々の命や生活が脅かされています。

災害の記憶をいかに伝え、防災に活かすべきか。福島第一原発の事故
を経験した大人の責任として、私たちに出来ることを行ってきたいと
思います。

それはご支援者のお心と共にあり、共に歩いていく道筋でも
あると思います。



2024年5月30日 定期総会 たらちね事務所



ご支援のお願い・ご寄付のお礼

今年の8月、たらちねの強化事業のご紹介とご支援のお願いをさせていただきました。
おかげ様で、多くのみなさまよりご支援を賜り、三つの事業の基盤強化を継続的に
行えることになりました。

1.子どもたちの転地保養

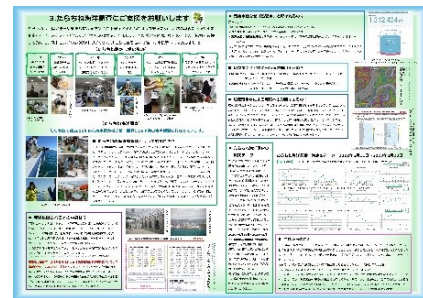
→事故を経験し、過酷な環境で過ごした子どもたちの心身は疲弊しています。心身の
健康を守るため、1人でも多くの子どもたちの保養参加を継続していきます。

2.内部被ばく軽減のための尿中セシウム測定

→未だ高濃度の汚染が残る被災地。体内への放射性物質の取り込みを、少しでも
軽減し、注意できるよう尿中セシウム測定の大切さを発信し、多くの方に
測定してもらえよう呼びかけていきます。

3.福島県沿岸および福島第一原発沖の定点海洋調査

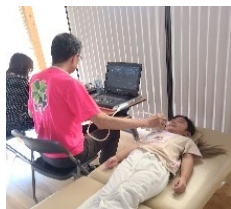
→いつまで継続されるか予想もできない海洋放出。今後、環境や私たちの生活に
どのような影響があるか、現時点で知り得る手立ては何もありません。測ることで
現状を可視化し、情報を公開していきます。
多くのご厚情とご支援に、心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



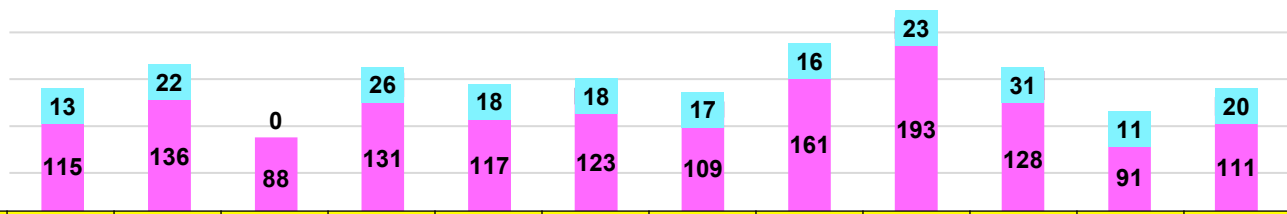
出張たらちね大相談会を開催しました

震災から時が経つにつれ、子育てをするお母さんたちが被ばくの不安を相談できる場所が、
少なくなりました。たらちねでは、被災した方たちの不安に応えるため、出張たらちね
大相談会を行いました。

9月1日(日)道の駅なみえ、10月6日(日)福島県農業総合センターで開催しました。
当日は、各事業担当者がそれぞれワークショップや、相談窓口を設置。日ごろ口に
することが難しくなってきた放射能汚染や、被ばくによる健康被害について、多くの
方が相談されていきました。ワークショップのパステルアートは、年齢問わず大人気。
素敵な作品が、たくさん出来上がりました。たらちねスタッフにとっても、それぞれの
地元の方たちと直接触れ合う機会がもて、実りある1日となりました。今後も継続して
開催していきたいと思ひます。



2023年10月～2024年9月までで1718件の測定(依頼測定その他、海洋調査や公園測定、砂浜測定などで採取した試料も含む)を行いました。セシウム137,セシウム134を測定するための、NAIシンチレーション検出器4台、ゲルマニウム半導体検出器2台、トリチウム,ストロンチウム90を測定するための、液体シンチレーション測定器3台の計9台が毎日フル稼働しています。



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
■ガンマ線	115	136	88	131	117	123	109	161	193	128	91	111	1503
■ベータ線	13	22	0	26	18	18	17	16	23	31	11	20	215
合計	128	158	88	157	135	141	126	177	216	159	102	131	1718

■ガンマ線…Cs137、Cs134を測定 ■ベータ線…トリチウム、ストロンチウム90を測定

茨城県で野生のたらのめ出荷自粛要請

2024年4月、茨城県北茨城市関本町地区でとれた野生の山菜「たらのめ」から210Bq/kgの放射性セシウムが検出されました。これは国の基準の1kg当たり100ベクレルを上回っていることから、茨城県は北茨城市に対して、野生の「たらのめ」の出荷を自粛するよう要請しました。茨城県内では11の市や町で野生のきのこ類、10の市や町で野生の「こしあぶら」の出荷が制限されています。同県の複数の市や町では、原木しいたけの出荷制限や自粛が続いています。このニュース後、たらちねでは山菜やたけのこ、きのこなどの測定依頼が増えました。



試料品名	採取地	採取月	セシウム137 (Bq/kg生)
たけのこ	福島県双葉郡大熊町	2024年5月	632.7±7.9
たけのこ	福島県いわき市鹿島町	2024年4月	80.3±16.1
たけのこ(はちく)	福島県双葉郡富岡町	2024年6月	ND<2.24
こしあぶら(野生)	福島県田村郡三春町	2024年5月	233.6±7.6
こしあぶら(野生)	福島県耶麻郡猪苗代町	2024年4月	189.1±14.0
こしあぶら	福島県双葉郡川内村	2024年4月	150.8±1.3
こしあぶら	新潟県	2024年5月	15.7±0.2
こしあぶら(野生)	山形県東置賜郡高島町	2024年4月	6.0±2.3
たらのめ(野生)	福島県福島市渡利	2024年4月	29.3±4.2
わらび	福島県いわき市小川町	2024年4月	24.8±0.2
わらび	新潟県	2024年5月	12.0±2.0
わらび(野生)	福島県田村郡三春町	2024年5月	ND<2.2
ごごみ	福島県いわき市小川町	2024年4月	13.4±0.8
ふき	福島県双葉郡川内村	2024年5月	4.5±0.5
ふきのとう	福島県耶麻郡猪苗代町	2024年4月	1.6±0.1
せり(野生)	福島県田村郡三春町	2024年4月	3.2±0.5
せり	宮城県石巻市	2024年4月	ND<1.6



トリチウム測定担当の草野です。

私は、公園にある線量計を初めて見たときに、原発事故から10年以上経っているのに、まだ事故の影響があるんだと気づきました。今も放射能に不安を感じて生活している方たちや子育てをしている方たちが、たらちねの測定結果を見て、安心したり数値が高ければ対策を考えたり、少しでも不安が安心に変わるといいなと思っています。そのために、出来る限り正確なデータを積み重ねていくよう、これからも日々努力していきたいです。

ストロンチウム90測定担当の高木です。

震災当時は小学校6年生でした。たらちねに入所する直前に今でも原発事故の影響が暮らしの中にあることをたらちねのデータを通して知り、驚きました。これからもひとつひとつの仕事に誠実に向き合いながら、いのちが大切にされる世の中をつくることに貢献できるよう努めて参ります。





海洋調査測定結果

【沿岸調査】 2023年5月～6月 福島県沿岸(処理水放出前) Bq/L

	セシウム137	トリチウム	ストロンチウム90
相馬港	0.005±0.0006	0.06±0.04	0.0011±0.0003
村上海岸	0.005±0.0005	0.06±0.04	0.0005±0.0003
請戸港	0.01±0.0007	0.09±0.04	0.0012±0.0003
双葉海水浴場	0.004±0.0006	ND<0.04	0.0009±0.0003
熊川河口	0.02±0.0008	0.16±0.04	0.0006±0.0003
岩沢海水浴場	0.008±0.0006	ND<0.04	0.001±0.0003
小名浜港	0.001±0.0006	—	0.001±0.0003

※—は、前処理が不十分だったため欠測

【沖合調査】 2023年8月2日 福島第一原発沖(処理水放出前) Bq/L

海水	セシウム137	トリチウム	ストロンチウム90
海水A 表層	0.002±0.0005	ND<0.04	0.0005±0.0003
海水A 下層	0.005±0.0006	ND<0.04	ND<0.0004
海水B 表層	0.003±0.0005	ND<0.04	ND<0.0004
海水B 下層	0.003±0.0006	ND<0.04	0.0007±0.0003
海水C 表層	0.003±0.0005	0.08±0.04	ND<0.0004
海水C 下層	0.003±0.0005	0.07±0.04	ND<0.0004
海水D 表層	0.003±0.0005	0.07±0.04	ND<0.0004
海水D 下層	0.004±0.0006	0.06±0.04	ND<0.0004
海水 富岡港	0.008±0.0006	0.06±0.04	0.0005±0.0003

【沖合調査】 2024年3月5日 福島第一原発沖(処理水放出後) Bq/L

海水	セシウム137	トリチウム	ストロンチウム90
海水A 表層	0.004±0.0005	分析中	ND<0.0005
海水A 下層	0.005±0.0005	分析中	0.0006±0.0003
海水B 表層	0.004±0.0005	分析中	ND<0.0005
海水B 下層	0.004±0.0005	分析中	0.0005±0.0003
海水C 表層	0.003±0.0005	分析中	ND<0.0005
海水C 下層	0.004±0.0005	分析中	0.0009±0.0003
海水D 表層	0.024±0.0008	分析中	0.0014±0.0003
海水D 下層	0.020±0.0007	分析中	0.0014±0.0003
海水 富岡港	0.063±0.001	分析中	0.0014±0.0004



2024年3月5日福島第一原発の様子



魚	クロソイ	ヒラメ
Cs-137 (Bq/kg生)	0.3±0.1	0.7±0.1
TFWT (Bq/L)	ND<0.35	ND<0.35
OBT (Bq/Kg生)	ND<0.09	ND<0.09
Sr-90 (Bq/kg乾)	ND<0.12	ND<0.2

魚	シロメバルA
Cs-137 (Bq/kg生)	0.8±0.1
TFWT (Bq/L)	ND<0.35
OBT (Bq/Kg生)	ND<0.07
Sr-90 (Bq/kg乾)	分析中

※海水中及び魚中セシウム134は、不検出だったため未記載
 ※検出したされたものは、赤字で記載
 ※組織自由水型トリチウムはTFWTと表記
 ※有機結合型トリチウムはOBTと表記

福島県沿岸調査に新しく3カ所追加しました。



いわき市では2023年8月から四倉漁港、江名港、小浜漁港の3カ所でモニタリングを開始しました。たらちねでも今年の6月から、この3カ所の測定を開始したので、測定結果は今後ご報告していきます。

たらちね海洋調査の結果は測定が終わり次第随時更新しています。
 たらちねHPよりぜひご覧ください。

<https://tarachineiwaki.org/radiation/result#kaiyou>



原発が産み出す高レベル放射性廃棄物。それを確実に処分できている国は、どこにもない。日本ではその最終処分場を決めるにあたり、数カ所の文献調査を始める段階です。「火山・地震国の日本で、10万年の間、核廃棄物を安全に埋設できる場所を選定するのは不可能だ。」地質学・地理学・地下水学などの専門家たちは、声明を発表しました。そもそも10万年後に、日本という国が存在していることさえ疑わしいところです。そして、10万年後までの責任を取ると公言すること自体が、無責任だといえます。

フィンランドに建設された核廃棄物の最終処分場「オンカロ」に行きました。20億年前からある岩盤を、地下約500メートルまで掘削した所に、体育館のような巨大空間があります。重機が楽に通れそうな張り巡らされた坑道には、酸素ダクトからの送気音が不気味に響きわたっていました。そこに、人が近づけば数十秒で死んでしまう原発の使用済み核燃料を順次搬入し、100年以上かけて6500トン埋蔵する計画だそうです。



福島第一原発からは放射性汚染水が、「科学的に問題ない」と公然と海に流されています。処分の方法のない核廃棄物、これ以上産み出すことを止めることが、未来へのせめてもの責任ではないでしょうか。

オンカロ坑道内
Photo by Misao Fujita

2024年11月 藤田操

たらちねおとなドック・こどもドック

昨年から新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行され、少しずつコロナ禍前の日常が戻ってきました。当たり前のように存在していた『日常』のありがたみを実感しております。たらちねクリニックでは、引き続き感染対策を行いながら『おとなドック』や『こどもドック』を実施しております。たらちねこどもドックは、原発事故当時18歳以下だった方（お誕生日が1992年4月2日以降の方）を対象に無料で行っています。大人も子どもも継続して健診を受けることで、過去の健診結果の推移を見ることができます。蓄積されていくデータは、自分の健康を自分で管理するための貴重な指標となってきます。これからも、みなさんが自分自身の健康を守って生きていくためのお手伝いをさせていただきます。

こどもドックのご紹介



検査項目		参考料金
診察	内科診察	
甲状腺超音波(エコー)検査	のう節や結節などの有無を調べます	-3,500円-
ホールボディカウンター(WBC)	全身の放射能測定(5分間)	-1,000円-
尿中セシウム測定	自宅で2ヶ月の蓄尿が必要です クリニックで専用のキットをお渡しします	-4,000円-
身体計測・生理学的検査	身長、体重、視力、聴力、血圧	
血液検査(小学生以上)	一般的な血液検査項目 (肝臓、腎臓、貧血、炎症反応) などに加えて 甲状腺ホルモンも調べます	-5,200円-
尿一般検査	比重、PH、蛋白、糖 ウロビリノーゲン、潜血	
心電図		-1,200円-

尿中セシウム測定



尿中セシウム測定の目的は、内部被ばくを測定することです。その結果により、日常生活や食事改善などのアドバイスや検診につなげていきます。

おとなドックは、こどもドックに胸部レントゲンが追加されています。対象者は、**双葉郡でお仕事をされている方、双葉郡に現在居住している方**です。

こどもドック利用者の声

『普段の生活や食べているものが体に影響がないか不安だったけれど、尿中セシウム測定を受けて、数字で見ることができたので分かりやすかった。』

『事故当時こどもは小学生で、自転車で遊びに行ったりしていました。後から放射線の影響を知り、心配していました。甲状腺検診で異常がなかったのととても安心しました。』

こどもドックの様子



院長コラム

たらちねHPのクリニックのコーナーでは、『日々の新聞』に毎月掲載している院長コラム「みさお先生のたらたら日記-ぼくのノート」を紹介しています。

先生のコラムのバックナンバーはこちらです→





原発事故から13年が経ち、甲状腺検診を受ける人は年々少なくなっています。2013年からはじめて出張甲状腺検診は、述べ15800人が受けられています。

8月は、山形県防災くらし安心部の交流相談会（福島から山形県に避難をされている方対象）にたらちね出張甲状腺検診として参加しました。山形県で甲状腺検診を受けられる機会は少なく、検診を受けた方から「福島県まで行って甲状腺検診は大変なため助かります」とのお声もありました。

『女性のためのたらちね防災プロジェクト』では、4月と6月に出張甲状腺検診の体験実習がありました。参加された方も実際に甲状腺検診を受けて、「大人でもこんなにドキドキするのだから、子どもたちはどんな気持ちだろうか」と話されていました。

たらちねの出張甲状腺検診は、3歳からどなたでも受けられます。不安を抱える声に寄り添い、健康を見守り続けていくことがたらちねの役目だと思っています。

甲状腺検診一覧 2024年1月～10月

出張検診日	検診会場	人数
1月14日	高萩中央公民館（茨城県）	26
1月28日	原町生涯学習センター（南相馬市）	29
2月4日	須賀川東コミュニティセンター（須賀川市）	24
2月25日	平窪公民館（いわき市）	18
3月3日	相馬市総合福祉センター（相馬市）	13
4月7日	たらちねクリニック（いわき市）	22
4月14日	たらちねクリニック（いわき市）	20
5月26日	巨理町中央公民館（宮城県）	16
6月23日	北茨城市民ふれあいセンター（茨城県）	24
7月14日	福祉のまちづくりの会（田村市）	19
7月28日	白河市図書館（白河市）	24
8月25日	置賜総合文化センター（山形県）	26
9月1日	なみえ道の駅（双葉郡）	10
10月6日	郡山農業総合センター（郡山市）	25
合計		296

出張甲状腺検診のエコー機器が、ご支援者様のご協力により新しくなりました。心より感謝申し上げます。



GE社 Versana Active R1.5

見やすい高解像度モニターで精細な画像表現力で検査をサポート。検診者さんを待たせることなく、スムーズに検査を行うことができます。



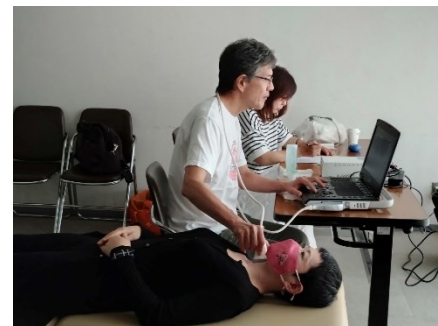
検診判定

福島県判定

A判定	A1 下記所見を認められなかったもの
	A2 5.0mm以下の結節（しこり）や20.0mm以下の嚢胞 経過観察が必要
B判定	5.1mm以上の結節（しこり）や20.1mm以上の嚢胞 専門医の精密検査受診を勧めます
C判定	甲状腺の状態等から判断して直ちに二次検査を要するもの

たらちね判定

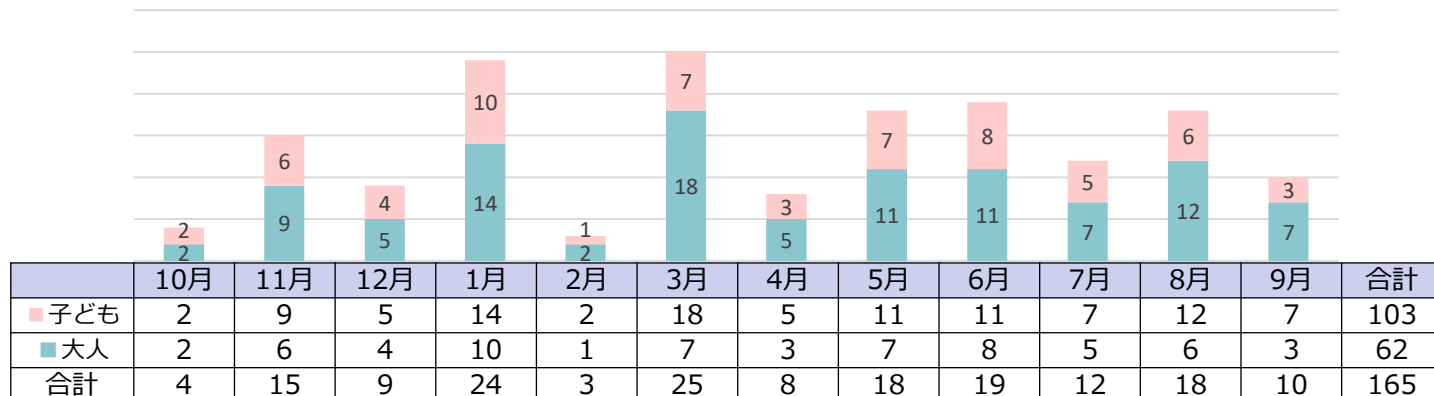
A判定	A1 下記所見を認められなかったもの
	A2 5.0mm以下の結節（しこり）や20.0mm以下の嚢胞 経過観察が必要
	A2-a 発育期の過程で発生するのう胞
	A2-b 発育期の反応でないのう胞
	A2-c 結節（1mm～5mmのもの）
B判定	5.1mm以上の結節（しこり）や20.1mm以上の嚢胞 専門医の精密検査受診を勧めます
C判定	甲状腺の状態等から判断して直ちに二次検査を要するもの



たちねの保養事業は、2019年からの新型コロナウイルスのパンデミックを受け、規模の縮小や中止の措置を取らなければならなくなりました。保養は身体健康維持だけでなく心のケアとしての効果も大きく、震災から13年が経つ今も、子どもたちにとっては大切なプログラムとして求められています。

現在は感染リスク軽減のため、参加者の定員を減らして実施しています。

2023年 10月から2024年9月までの1年間で、子ども103名・大人62名 合計165名の方が保養に参加しました。



沖縄・球美の里

2024年も、たくさんの方が保養に参加しました。

子ども達が大自然の中で時間を気にすることなく、おもいっきり遊んだり、ご家族でのんびり過ごせるよう、体調や天候と相談しながら余裕のあるスケジュールで保養を実施しています。また、発酵食品をとり入れた食事やおやつを提供と、ボディワークによるケアを行い、子どもたちの心身の健康増進に努めています。



kuma=beko

くまべこお泊り会

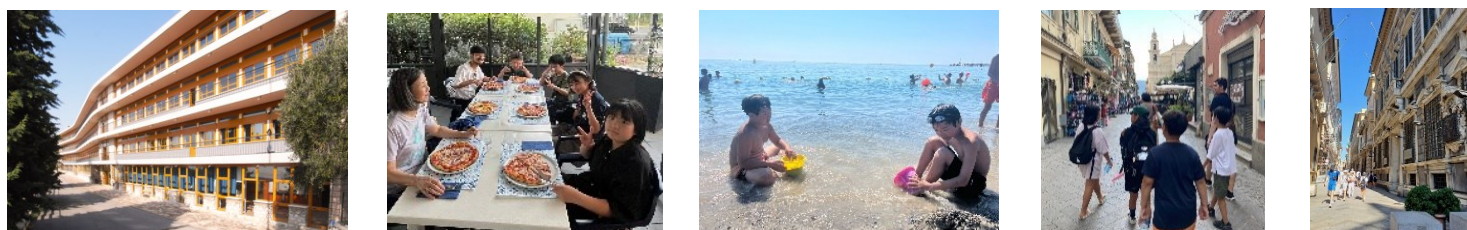
2024年は、南会津郡只見町にある森林の分校ふざわ(冬)と、沖縄・球美の里(夏)でお泊り会を実施しました。

森林の分校ふざわでは、そり滑りやスノーチューブ、かんじき体験など豪雪地帯ならではの冬の遊びを満喫しました。沖縄・球美の里では、沖縄の海や山の大自然の中で思いっきり遊び、のんびり過ごすお泊り会をしました。



オルト・デイ・ソーニ イタリア転地保養

2024年のイタリア転地保養は、小学4年生～6年生の4名がイタリア ミラノにある「休暇の家」で約1か月間過ごしました。イタリア人の子どもたちと一緒に生活しながら、海遊びやレクリエーション等を通して交流を深めました。現地スタッフと一緒に街散歩に出かけたり、イタリアの食文化に触れ、多くの事を学び充実した時間を過ごしました。



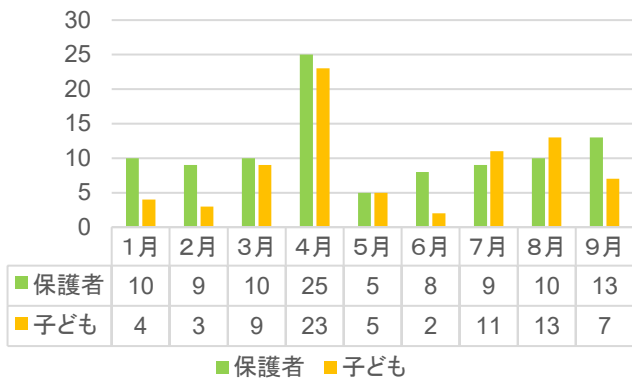


今期は、新規の問い合わせが多くありました。子どもの身体の不調、不登校など、目に見える問題をきっかけに相談に来られます。乳幼児を持つお母さんは、我が子は可愛く大好きだけれど、忙しい毎日で余裕がなく、イライラしてしまう自分を責め、涙される姿もありました。そこで大切なのは、ナラティブ（語りがもたす力）です。安心して語ることができる場所があるだけで、明日への力になります。悩みを、こころの奥にしまい込まず、語ることにより、こころが整理されていきます。子どもがすくすく育つためには、お母さんが元気であることが大事です。子どもの遊び場では、遊びの力でこころに元気が戻ってくるよう、1対1で関わりながら、その日その時、子どもが行いたい遊びを存分に楽しみました。子ども一人ひとりが満足感を得られるよう時間を大切にしています。これらのサポートを安心して利用していただけるよう、乳幼児精神科医の渡邊久子先生やサイコソマティックの専門家である徳山幸江先生からご指導いただき、研鑽に努めています。

その他、夏休みは、子どもを対象にした『きのこの観察会』と『海辺の生き物観察会』を開催。また、お母さんたちを対象にしたママカフェも定期的に行い、ワークショップや勉強会を通じて、母親同士、楽しめる時間をもちました。



あとリエ・たらちね利用者数(延べ人数)
2024年1月～9月 176名



ママカフェや
あとリエの様子



WAIMH 世界乳幼児精神保健学会 第19回 タンペレ大会 in フィンランド

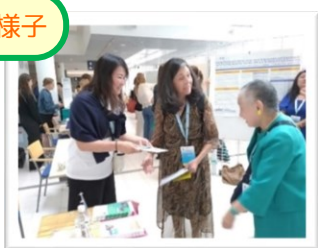
たらちねでは、東日本大震災による原発事故災害が子どもたちの心に及ぼす影響について広く知ってもらい、専門家の支援協力を得て今後役に立つため、学会でのポスター発表や事例報告を行なっています。

今回は世界乳幼児精神保健学会（WAIMH）の大会でポスター発表を行いました。開催地はフィンランドのタンペレ。ムーミンの物語が有名です。大会のテーマは、互いに励ましあい、時に困難で恐れのあることであっても力をあわせて助け合い、光や喜びを分かち合い、ムーミン谷を探索することでした。ムーミン一家はレジリエンスのある人々です。そこから母子保健の象徴的な関わり、変化、多様性などを学ぶことができます。キーワードはSocietal trauma 社会的トラウマ Social withdrawal 社会的ひきこもり（孤立）でした。

たらちねからは「乳幼児期に未曾有の大震災で被災した子どもたちに浮上してくる13年目の新たな危機」と題し、ポスターとブースの両面から発信しました。東日本大震災は、地震・津波・原発事故の3つの複合災害ですが、乳幼児にとっては、震災をきっかけとする母親のトラウマ噴出という4つ目の災害も発生しました。母親の心に隠れていたトラウマが、震災をきっかけにいもずる式に吹き出し、我が子への対応に大きく影響しました。過酷な状況の中、乳幼児は傷ついた心に蓋をし、感情を封印して生き延び、13年後の現在、思春期をむかえています。福島で置かれている環境や親子へのピアサポートを、一つひとつ丁寧に言葉にしてきました。アメリカ、スコットランド、スイス、ドイツ、スウェーデン、ウクライナ、オランダ、エクアドル、たくさんの方々がたらちねの活動に興味を持ち質問してくれました。

『放射能事故後のトラウマの状況』・『親子がたらちねに来ることによってどの様な変化がみられたか?』・『サイコソマティックマッサージはどのようなもの?』・『住民のケアをし続ける活動が素晴らしい』・『良い調査であり、大変貴重なものである』・『ウクライナも母子避難の形となり、福島の場合と似ている』・『これからも継続的なサポートが大事』など、国や職種を越え、たくさんの方々と意見交換することができました。

世界大会の様子



311から、たらちねでは女性たちが市民科学を駆使し、市民ができる防災を学び続けました。今、日本では、南海トラフ大地震など、大規模災害が起きることが予測されています。それは、明日起きるかもしれない、そんな不安があります。ふたたび原発事故が起きてしまったとき、必ず役立てたい、「たらちね」が経験したことを、女性の立場から女性のみなさんにノウハウを共有したいと思い、2022年8月から休眠預金の助成を受け、防災プロジェクトをスタートしました。

原子力災害の要因となる主な現象は放射性物質の拡散です。放射性物質は、見えない・におわない・感じない物質です。福島第一原発事故が起きた時、私たちには知識も情報もありませんでした。そのために、多くの人が余計な被ばくをしました。「知らない、情報がない」により、子どもたちが余計な被ばくをしないよう私たちは守りたいのです。また原発防災に関わる方や関心を持つ人が増えていくこと、原発問題は話しにくいからと敬遠せず、普通に対話したり、議論できる場が広がってほしいと願っています。

【プログラム1 知る・学ぶ編】 2023/1～11

初期被ばく、放射性核種、ALPS処理汚染水、健康被害のついて、zoomの講座を9回に分けて行いました。また、福島現地見学会では実際に福島に来ていただき、座談会等を行いながら、交流を深め、参加者同士が繋がり合える場をもちました。感想として、『原子力災害に対して多角的に学ぶ機会がなかったので大変貴重な機会だった。』『自分の居住地域で原発事故が起きた時、どう動けばいいのか、何が必要なのか、どんな呼びかけができるのかなど、自分事として考えることができました。』など、たくさんの反響がありました。

【大阪研修会】 2024/1/20.21

原発は稼働していなくても、自然災害により深刻なダメージを受ける可能性を秘めています。初期被ばく、健康被害、心の分断など、事故直後では正しい判断はできず、平時の時だからこそ、どのような行動をとり、対処、対応ができるのか考え、議論しておくことが大事です。大阪研修会では、いつ、どこで、誰に、何を、なぜ、どのように行動するかのアクションプラン『平時の時だからできる対応の必要性をあなたはどのように伝えますか？』を作成しグループワーク後、発表しました。

ファシリテーター office musubime 河合 将生

大阪研修会の様子



プログラム2 実習編

原発事故によって拡散した放射性物質は沈着し、長い間消えることはありません。時間が経過する中、処理水の海洋放出のように新たな問題が次々と起こってきます。その中で日々の暮らしを守り、人々の健康を守りながら生きるためには、放射能の測定をして汚染を知り、気をつけて生活することが求められます。また、健康被害にも備えなければなりません。

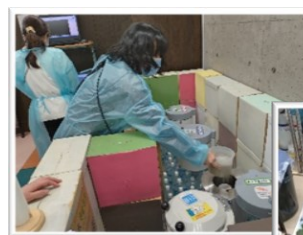
この実習編は2024年1月からスタート。はじめにzoom学習会と座談会を開催。

1/18『身近な放射性物質について知る』 2/8『放射性物質の改変と減衰の仕組み』 2/22、3/28『測定器の種類について知る① ②』 4月からは、たらちねのラボに来ていただき、発災後の暮らしに必要な放射能測定技術の実習と、甲状腺検診の現場を体験しました。ふたたび原発事故が起きてしまったとき、すぐに行動できる力を身につける、初期被ばくに特化した実習です。

4/6～10、4/13～17、6/22～26

測定実習『公園測定の実地研修』『NaIの前処理・測定』『甲状腺検診』

測定実習の様子



ご支援ありがとうございました！

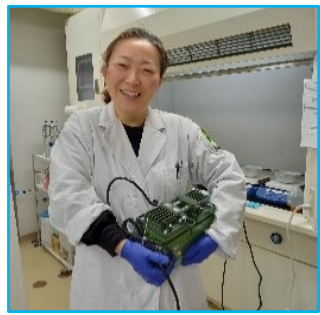
今年もたくさんのご支援ありがとうございました。たらちねは寄付金だけでなく、チャリティイベントの開催や物資のご支援など国内外から沢山の応援をいただいております。



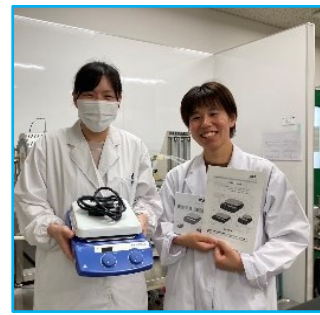
神戸在住のご支援者様から、たくさんの素敵な絵本をいただきました。神戸市の絵本屋さん『ぼたん堂』さんが、色々なテーマをもとに選書してくださっています。小さい子から大人まで楽しめる絵本ばかりです。



沖縄・球美の里の保養にボランティアとして参加してくださった方より、お手紙とプレゼントをたくさんいただきました



『ウィズ・アス・プロジェクト』の皆さまから、「ホットプレート」と「ドライ真空ポンプ」をいただきました。



阪神・淡路大震災発生後に発足したNGO団体の方より、たくさんの「まけないぞう」をお送りいただきました。



『かたやま農園』さんより、農薬を使用しない・肥料を使用しない・除草剤を使わない自然栽培で作られた黒米を使用した「しゅうまい」をいただきました。



『NIPPON IT Charity EKIDEN * ニッポンIT チャリティ駅伝』様より



ご支援者様より、ママカフェ(レジンを使ってアクセサリー製作)の材料をたくさんいただきました。



チクチク会の皆さまより、かわいいフェルトマスクや折り紙をいただきました。



ご支援者様より、新鮮な野菜や果物をたくさんいただきました。



たくさんのご支援を本当にありがとうございました！！



「たらちね」の活動は、みなさまからのご寄付でまかなわれております。
子どもたちの命を守るためにご支援・ご協力をお願い申し上げます。



クレジットカードによるご寄付は
インターネット上からお申込み可能です！



ご寄付は税控除の対象になります

たらちねは認定NPO法人です。個人・法人・遺産相続からご寄付をいただいた場合、税金の控除が
ございます。

たらちねにいただいたご寄付は、「特定寄付金」として、税額控除の対象となります。法人から
のご寄付につきましては、特別損金算入限度額の寄付金として損金算入することができます。

寄付金控除を受けるには

寄付金控除を受けるためには、必ず確定申告をしてください。

(確定申告の際には「たらちね」が発行した領収書が必要です)

10,000円の寄付をすると…



(寄付金額 - 2,000円) × 40%
が還付されます

※所得税額の25%が限度

Paypal(ペイパル)による
クレジット決済も可能です



《ゆうちょ銀行からのお振込み》

ゆうちょ銀行 02240-5-126296 トクヒ) イワキホウシャノウシミンソクテイシツ

《ゆうちょ銀行以外の他銀行からのお振込み》

東邦銀行 小名浜支店 店番号 605 普通預金 口座番号 1389887

トクヒ) イワキホウシャノウシミンソクテイシツ

「野の道」

野の道をととのへよう
子らが行く路
樹々もあれ、野の花々
かたはらに蜜も虫も
裸足よ歩けば
ひたひたと
死んでゐるひとたち
うたを唱へば
かやかやと
未だ生まれぬもの等にも
響き伝はる
生きてゐる音
野をならし
道をととのへよ
子らが通ふ野の路
はるかむかうを見るあたり



「子どもたちの歩く道をととのえていく」私たちが日々大切にしていることです。
子どもたちの毎日を支える活動の詩(うた)です。

認定NPO法人 いわき放射能市民測定室 たらちね

〒971-8162

福島県いわき市小名浜花畑町11-3 カネマンビル3F

TEL 0246-92-2526 FAX 0246-38-8322

メールアドレス toiawase@tarachineiwaki.org

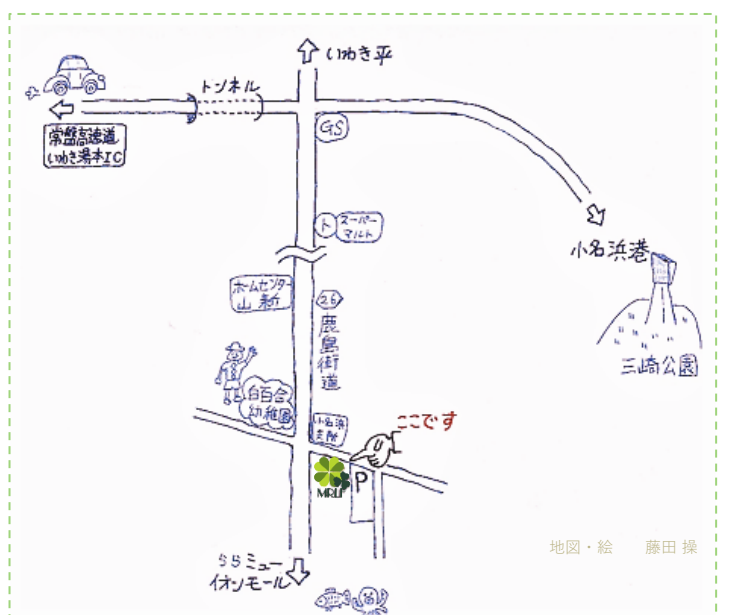
ホームページ

インスタグラム

フェイスブック



随時更新してます♪ フォローお待ちしております！



たらちね通信vol.23

発行者 認定NPO法人いわき放射能市民測定室たらちね

福島県いわき市小名浜花畑町11番地の3

電話 0246-92-2526

ホームページ <https://tarachineiwaki.org>

発行日 2024年11月1日

Copyright © 認定NPO法人 いわき放射能市民測定室 たらちね

この内容を許可なく転記することを禁じます